

サケ科魚類遡上状況調査（海域WG長期モニタリング調査）について

1 「多利用型統合的・海域管理計画」における長期モニタリング

(1) 目的

サケは、「多利用型統合的・海域管理計画」において指標種となっていることから、遺産登録された知床の保全対策（サケ科魚類の資源量調査）として実施。H19から隔年調査※。

※海域管理計画構成要素の指標種のうち、北海道の管轄となっているもののうち、特に重要な種としてサケ科魚類とアザラシ類を隔年で実施。

(2) 調査河川の選定

知床半島の44河川においてサケ科魚類の遡上数調査をH17-18で行い、遡上数の多い2河川（斜里：ホロベツ川、羅臼：ルサ川）を長期モニタリング調査の河川として海域WGにおいて選定。

なお、斜里側はルシャ川、テッパンベツ川の遡上数が実質多かったが、ヒグマの出没頻度が高いことなどから、長期的に行う調査の安全性なども含め総合的に判断しホロベツ川とした。

◇過去に北海道が実施した調査

年度	目的	河川数	備考
H15	世界遺産登録推進施策の一環	(25)	知床半島内の河川の状況を調査
H16		(19)	
H17	長期モニタリング調査河川選定	19	重複調査河川が2河川あるため実質44河川を調査
H18		27	
H19	遺産登録された知床の保全対策 (サケ科魚類の資源量調査)	2	サケ科魚類の長期モニタリングとして H19から隔年調査
H21			
H23			

2 モニタリング内容

河川に生息あるいは遡上するサケ科魚類（シロザケ、カラフトマス）の分布現況及び産卵状況等を把握

◇モニタリング手法

項目	調査方法
時期及び回数	8月～翌年1月の間に2～10回
調査ポイント数	河口付近の0点から100m間隔で26区まで調査
調査方法	調査地点における目視によるカウント 分布現況：親魚の生体数 産卵床数：珪藻などの付着等で判断

◇モニタリング結果

「多利用型統合的・海域管理計画 定期報告書」として公表（道HPにおいて公開）

3 新手法（台形近似法）に変更するにあたっての課題

- (1) 海域WGで行ってきたモニタリングを準用するため、海域WGの理解が必要→了解済み
- (2) これまでのデータと新手法によるデータの連続性の確保
- (3) 現行の予算の範囲内で必要な対象魚種のほか、調査日数及び1日の調査回数など、最低限必要なデータの確保
- (4) 新手法により、現行の予算内で必要なデータの確保が見込めない場合は、従前の手法を継続することとなるが、この場合ルシャ川（森林管理局）及びルサ川（北海道）とで調査手法が異なる